

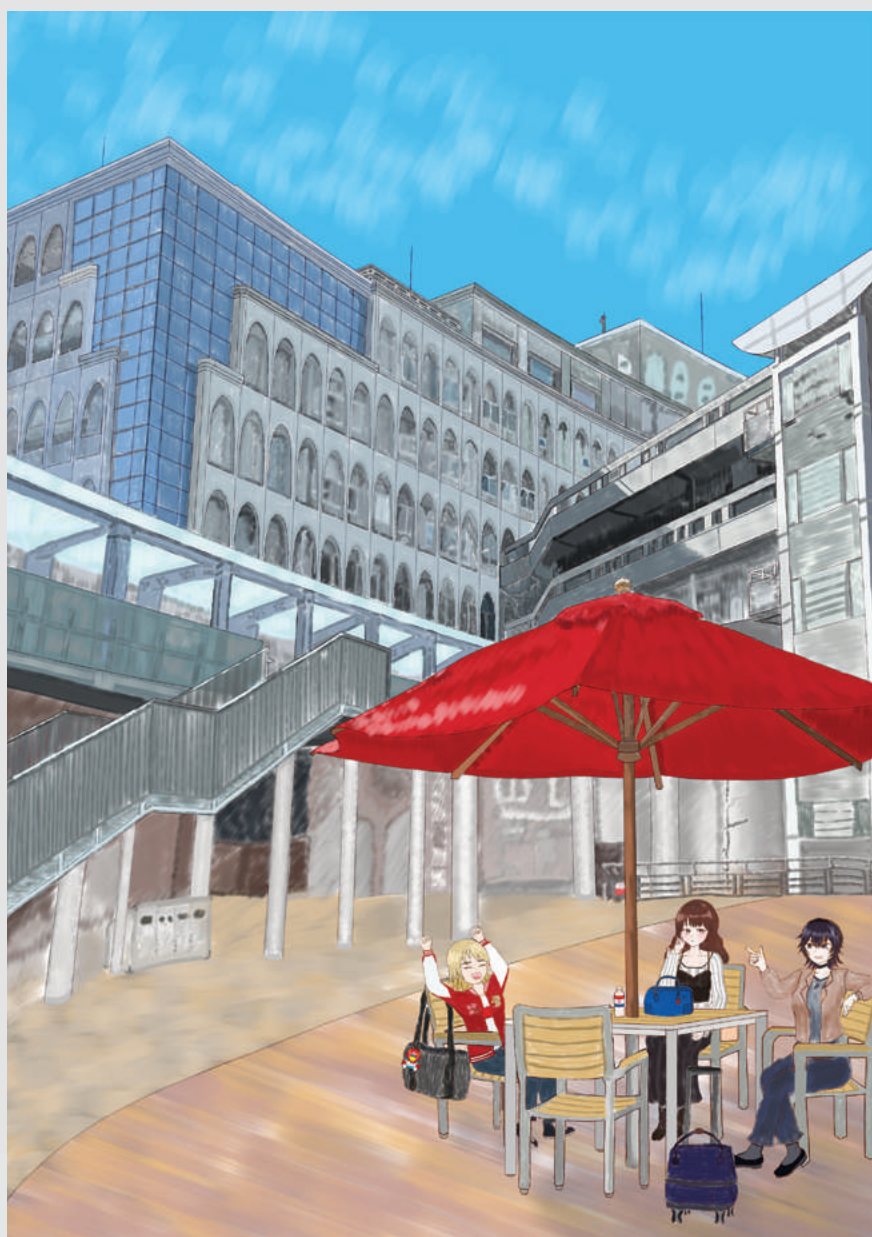
CHUKYO UNIVERSITY

PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

2025 Dec.

207号

SHINKENMI



真剣味



私たちの CHUKYO

CONTENTS

- 04 学外厚生施設(蓼科セミナーハウス マウントビュー蓼科)
- 06 在学生インタビュー
- 08 マンスリーニュース (2025年5月~10月)
- 11 センタービルラウンジ改修プロジェクト
- 12 研究室探訪
- 14 WRC RallyJapan2025で中京大生が来場者への「おもてなし」を実践!
- 15 公開講座
- 16 探偵ライトスcoop
- 17 レッツゴーブンカ 其ノ五
- 18 誌面講座 vol.7
- 19 中京大学附属中京高等学校News

コンセプトムービーはこちらからご覧いただけます。

中京大学 挑戦する大学

検索



長野県茅野市にある、蓼科セミナーハウス『マウントビュー蓼科』は中京大学の学外厚生施設で、本学学生のゼミ合宿や学外研修に利用されています。別荘地・三井の森の奥にある36,000㎡の敷地内には、宿泊施設やセミナールーム、サウナ付きの大浴場などを備えています。

南・中央・北アルプスと八ヶ岳連峰のパノラマが手に取るように望める標高1,500mの高台に位置し、夏でも快適に過ごせます。周辺には蓼科高原や、白樺湖、霧ヶ峰、美ヶ原など大規模なリゾート地が控えており、思う存分自然と親しむことができます。

TATESHINA seminar house

蓼科 セミナーハウス

2025.summer マウントビュー蓼科
セミナーハウスがリニューアル

ワンちゃん同伴も
大歓迎♪



お食事処

広々とした部屋で
ゆっくりくつろげます

～開放感のあるロビー～



宿泊部屋

自然を眺めながら
大浴場で
リラックス♪



Highlights 1

高原で安らぎの ひとときを

館内には、アート作品が随所に飾られ、静かに彩りを添えています。宿泊施設は8畳と10畳の和室で、どの部屋からも四季折々の自然を満喫することができます。サウナを備えた大浴場では、ゆったりと湯につかりながら心身をリフレッシュしていただけます。ゼミ合宿や部活動での利用はもちろん、学生の家族の宿泊にも利用いただけます。学びと交流、そしてやすらぎが調和するセミナーハウスへ、ぜひお越しください。



サウナルーム



大浴場

Room・Facilities

ワンちゃんも
体を動かして
リフレッシュ！



Highlights 2

愛犬と過ごせる空間

2025年のリニューアルで、冷暖房完備の愛犬用屋内休憩室を設けました。暑い日でも、愛犬と一緒に安心して過ごせる快適空間です。屋外には約150㎡のドッグランも整備され、人工芝のコートで思いきり走り回ることができます。パラソルと椅子が用意され、飼い主もすがすがしい空気のなか、快適に見守れる設計です。自然に囲まれた高原で、人と犬がともにくつろげる空間となっています。



テニスコート

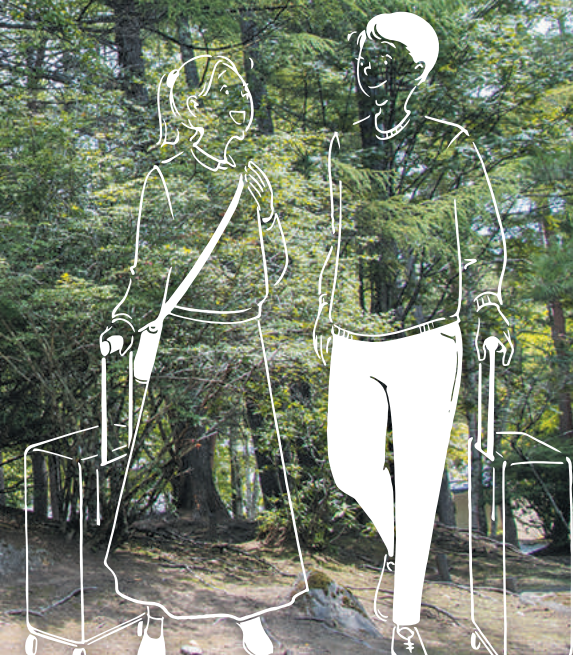


ワンちゃんが
のんびりできる
お部屋もあるよ



愛犬用屋内休憩室

～たくさん走ってちょっと休憩～



国家公務員への道。

大学のサポート体制が支えてくれた

私が4年間、公務員試験という長い道のりを走り抜くことができた一番の原動力は、「家族に喜んでほしい」という強い思いでした。「双子の兄と私を私立大学へ通わせてくれた両親へ、目に見える形で恩返しをしたい」その思いが頑張り続ける原動力でした。

入学当初は、まさか自分が国家公務員を目指すことになるとは想像もしておらず、地元の愛知県庁を目標にしていた。大きな転機が訪れたのは3年生の時です。キャリア支援課の職員の方に「視野を広げてみたらどうか」と助言をいただき、様々な省庁の説明会に参加しました。そこで、国という大きなフィールドで社会に貢献できる仕事のスケールの大きさに魅了され、「国家公務員」という目標が明確になり、思い切って目指そうと決意しました。勉強方法に迷った時、的確な指導をしてくださる先生方。そして、パンフレットには載っていないリアルな情報を教えてくれる先輩方。中京大学の手厚いサポート体制があったからこそ、今の私があるのだと断言できます。私には特別な才能があったわけではありません。しかし、大学の授業に真面目に取り組む、キャリア支援課をフル活用して努力を積み重ねた結果が、夢につながりました。

MY STORY at CHUKYO

大学の手厚いサポートをフル活用！

公務員試験対策を知り尽くした先生や職員さん、そして先輩からのアドバイスをいただけたおかげで「皆さんを信じていけば大丈夫」という安心感がありました。専門知識の対策面だけでなく、精神的な不安の解消にも役立ちました。



法学部 4年
永井 颯太 (ながい そうた) さんの場合
【内定先：法務省矯正局(国家公務員総合職)】

グラフで見る私の
4年間

1年 2年 3年前半 3年中盤

企業選びがスムーズに！

「譲れない条件」の意外な決め方で

4年間続けた外資系コーヒESHOPでのアルバイトの経験が、私のキャリアビジョンに大きく影響しています。時間帯責任者として、スタッフの育成や働きやすい環境づくりを担いながら、「人事」という仕事に強い関心を抱くようになりました。その中で、社員一人ひとりの人間力を大切にする企業理念に強く共感し、実際にその理念が浸透していると感じたのが、内定先の企業でした。

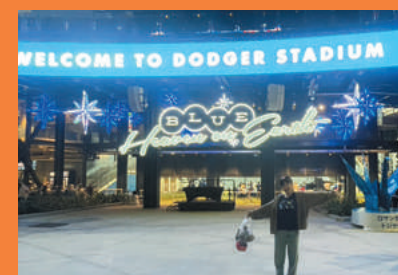
就職活動の軸を決めるとき、「年間休日120日以上」のような分かりやすい条件や「これがいい」という理想を重視しがちだと思うのですが、私はあえて「これは嫌だな」という条件から考えていました。ちょっと変わったやり方かもしれませんが、こちらの方が企業を絞り込みやすかったので、ぜひ試してみてください。

就職活動では、大学のキャリアサポートに何度も助けられました。3年生の初めからキャリア支援課のカウンセラーの方に相談し、エントリーシートの添削や自己分析を手伝っていただきました。自分では気付けなかった強みや、客観的な視点でのアドバイスは本当に心強かったです。後輩の皆さんや保護者の皆さまも、ぜひ大学のサポートを積極的に活用してほしいと思います。

MY STORY at CHUKYO

人生観が変わった海外一人旅

ロサンゼルスへ。現地では楽しい思い出はもちろん、アクシデントもあるなど、さまざまな経験ができました。そのおかげで、物事に対してドン!と構えて取り組めるようになり、就職活動も物怖じせず挑めました。



ロサンゼルス「ドジャー・スタジアム」で

幅広い世代の人と関わるぞ

理想の進路に決定

アルバイトスタート!

人事・育成の仕事がしたいな

大学で相談する日々

1年前半 1年後半 3年前半 3年中盤 3年後半

グラフで見る私の
4年間

総合政策学部 4年
桑原 桃 (くわばら もも) さんの場合
【内定先：トヨタ自動車株式会社】



①『硬式野球部』春季リーグ優勝！全日本大学野球選手権大会進出を決める！



②『経営学部』2025年度リーローンチパッド全国大会で審査員賞



③『国際交流 交換留学生』留学生が母国をポスターで紹介「International Fair」



④ 豊田キャンパスで、伊保小学校の水泳授業を実施



⑤『硬式野球部』全日本大学野球選手権大会ベスト8 学園首脳陣を表敬訪問



⑥ 低学年向けキャリアイベントを開催。学生の進路選択をサポート



⑦ 中部国際空港×中京大学 国際交流ボランティアVOICE「それ、言ってよ先に。」展を開催



⑧ 中京大学×トヨタ自動車硬式野球部 地域とつながる夏祭りを開催



⑨『経営学部 濱田知美ゼミ』ヨシ繊維事業の連携開始



⑩『総合政策学部』企業の課題解決案を発表 ユニークな案が評価

MONTHLY NEWS マンスリーニュース

2025.5 — 2025.7

① 硬式野球部が愛知大学野球春季リーグで2季ぶり44回目の優勝を飾り、全日本大学野球選手権大会への出場を決めました。優勝がかかった最終戦は延長戦にもつれ込む熱戦となり、劇的なサヨナラ勝ちで勝利をつかみました。主将の高木快大投手（スポーツ科学部4年）の圧巻のピッチングで、チームを全国の舞台へと導きました。

② 渡邊結衣さん（経営学部4年）が2025年度リーローンチパッド全国大会において審査員賞を受賞しました。米ぬかをアップサイクルした栄養補助食品「ライスブランパー」の提案が高く評価されての受賞です。渡邊さんは学内の起業やビジネスコンテストを支援する中京大学起業サークルを立ち上げ、代表として活動しています。

③ 来日している交換留学生がブース形式で母国の文化や生活情報を紹介し、中京大生と交流する「International Fair」を5月14日・16日に開催しました。アメリカ、イタリア、韓国など6カ国の留学生が作成したポスターが並び、中京大生は異文化に触れながら留学生との会話を楽しみ、国際交流の輪を広げていました。

④ 豊田キャンパスで伊保小学校の水泳授業が行われ、本学水泳部員も参加しました。クロール等の基本を丁寧に教え、プールは子どもたちの笑顔でいっぱい。豊田市との連携協定による全国でも珍しいこの取り組みは、温かい世代間交流の場にもなっています。今年度は2校で実施し、効果検証を経て、2026年度以降の拡大を目指します。

⑤ 全日本大学野球選手権大会でベスト8の成績を収めた硬式野球部が、梅村学園の首脳陣を表敬訪問しました。本塁打を放つなど素晴らしい活躍を見せた秋山俊選手（スポーツ科学部4年）は、日本一を実現できなかった悔しさをにじませつつ、侍ジャパン大学日本代表に初めて選出されたことについての意気込みを語り、活躍を誓いました。

⑥ 低学年向けのキャリア形成支援イベント「Chukyo Career School（春）2025」が開催されました。本イベントは1・2年生が対象で、社会で活躍する卒業生や企業人から仕事のやりがいや業界について学ぶというものです。第2部の卒業生相談会では業界研究や面接対策について活発な質疑応答が飛び交い、先輩・後輩ならではの率直なやりとりが行われていました。

⑦ 国際交流ボランティア「VOICE」が中部国際空港と連携し、企画展「それ、言ってよ先に。」を開催しました。クリエイティブディレクター明円卓氏の助言も得て、約半年かけて企画しました。外国人観光客から寄せられた「もっと早く知りたかった日本の情報」を分析し、文化の違いから生じる戸惑いや発見をポスターで紹介しました。

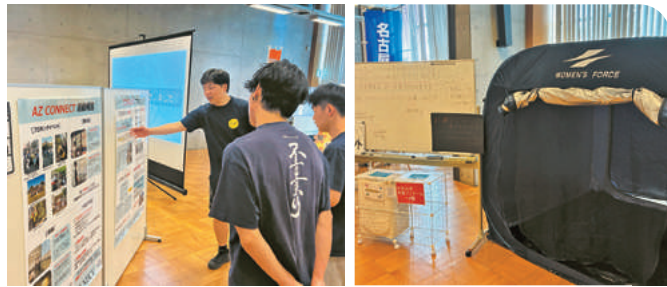
⑧ 豊田市と相互協力協定を結ぶトヨタ自動車硬式野球部と、本学が連携し、地域とつながる夏祭りを豊田キャンパスで開催しました。参加した学生たちは主体的にミーティングを重ね、当日はアナウンス体験やサイン会などを通して、来場者と選手の交流をはかりました。実践的な学びの場となると同時に、地域活性化にも貢献しました。

⑨ 経営学部 濱田知美ゼミが、日本新聞インキ株式会社および岐阜県飛騨市と連携し、河川敷のヨシ（川辺に自生するイネ科の多年草）を活用した繊維事業を開始しました。学生たちは環境保全と地域活性化を目指し、ヨシを原料とした製品の企画開発やマーケティング戦略の立案に取り組み、新たなビジネスモデルの構築に挑戦します。

⑩ 名古屋中小企業投資育成株式会社との連携授業「社会人基礎力講座」で、総合政策学部の学生たちが実際の企業の現場課題解決に挑みました。学生たちは現地調査やヒアリングを重ね「健康経営」の制度やインフルエンサー活用策などを報告会で発表しました。企業からは、学生らしいアイデアと具体的な提案が高く評価されました。



11 『体育会ダンス部』世界的舞踊団と初共演



12 『スポーツ科学部』芦塚ゼミ・草薙ゼミ「地球を愛する学園祭」に出展



13 鈴木元久さんが豊田市長と意見交換 テーマはSDGs



14 中京大学と南山大学の学生消防団の学生たちが要救助者役として参加



15 『社会連携教育センター』開設記念講演会「大企業で挑むスタートアップ精神」



16 中京大学硬式野球部から3選手がドラフト指名を受ける

13 豊田市主催の「学生×市長 シン・とよたミーティング」に、鈴木元久さん(現代社会学部4年)が参加しました。豊田市内の大学生などが太田稔彦市長とSDGsをテーマに意見交換するというもので、鈴木さんは大学でのプロギング(ジョギングをしながらゴミを拾うスポーツ)活動について語り、「楽しみながらごみ拾いを行うイベントができるといいのでは」と提案しました。

14 昭和消防署によるはしご車訓練が9月4日、名古屋キャンパスで実施され、中京大学と南山大学の学生消防団の学生たちが要救助者役として参加しました。訓練終了後は、消防士と学生消防団の意見交換会が本学学食「CHUKYO Terrace」で開催されました。学生たちが消防士採用試験や消防学校での生活について質問するなど、活発なやり取りが行われました。

15 社会連携教育センター開設記念講演会「大企業で挑むスタートアップ精神」(第1弾)が開催されました。講師には、本学卒業生である綿石早希さんをお招きしました。綿石さんは株式会社リコーで働きつつ、副業として起業家育成プログラムのメンターなど、多彩に活躍されており、学生たちにとっては発見の多い講演会となりました。

16 2025年10月のプロ野球ドラフト会議で、本学3選手が指名を受けました。秋山俊選手(埼玉西武ライオンズ3位、スポーツ科学部4年)、高木快大選手(広島東洋カープ7位、スポーツ科学部4年)、大矢琉晟選手(福岡ソフトバンクホークス育成3位、スポーツ科学部4年)の3人です。清明ホールでは歓声と拍手が響き、3選手は支えてくれた人々に感謝を述べました。

11 中京大学体育会ダンス部は7月27日、卒業生の舞踊家・三代真史氏率いる三代舞踊団の35周年記念公演「蜘蛛の糸」に出演し、初共演を果たしました。「コンクラーベ(教皇選挙)」を披露し観客を魅了。その後、「コンクラーベ(教皇選挙)」は、8月の全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)で「入選」という成果を収めました。

12 スポーツ科学部の芦塚ゼミと草薙ゼミが、愛知万博20周年記念事業「地球を愛する学園祭」に出展しました。このイベントには、県内22大学39チームが参加し、芦塚ゼミは海洋ごみ問題や寄付活動、地産地消をテーマに3チームが参加。草薙ゼミはアスリート向けマフィン販売や、女性アスリートなどのための「簡易型更衣テント」を展示し、来場者と交流しました。

中京大学



ITOKI

KOKUYO



学生と企業が共創する「未来のラウンジ」 センタービルラウンジ改修プロジェクト

中京大学では、学生一人ひとりのニーズに寄り添い、快適で交流の生まれる学びの場づくりを目指した「センタービルラウンジ改修プロジェクト」が進行中です。1994年以来、変わらぬ意匠のままだったセンタービル6～8階のラウンジスペースを、現代の学生生活にふさわしい空間へと再構築する試みです。

学生と企業が協働で創る「学びと出会いの場」

本プロジェクトは公募で集まった22名の学生が、国内を代表するオフィス家具メーカーである株式会社イトーキ(以下、敬称略)、コクヨマーケティング株式会社、そして教育施設づくりに豊富な実績を持つ株式会社丸天産業の3社とタッグを組み、意見交換を重ねてきました。

学部・学年を問わず集まった学生たちは、建築やデザインの専門知識を持たずとも、自らの視点で課題を見つけ、提案を行うなど、主体的にプロジェクトを牽引しています。

自ら行動し、挑戦する。学生の熱意と努力

参加企業からは、学生たちの行動力と情熱に驚きの声が上がっています。イトーキからは「皆さんの積極性には驚かされました。自ら発案し、アンケートを対面で実施するなど、指示を待たずに動く姿に感銘を受けました」。

また、丸天産業は「ワークショップでの議論は白熱し、時間が足りないこともしばしば。オンライン会議にも自主的に参加してくれました」と。コクヨマーケティングからも「ワークショップ以外の時間にも学生同士で意見交換を重ねる姿に、強い意欲を感じました」と、その熱量が高く評価されました。

企業側からも「発見が多かった」との声

イトーキは「学生の自由で伸びやかな発想や、日常のリアルな意見は新鮮で、普段の仕事では得られない気づきをもらいました」と語り、コクヨマーケティングも「学生の生の声を聞くことで、私たち自身の視野も広がりました」と振り返ります。丸天産業も「社会人同士では出てこないような柔軟なアイデアが多く、多角的に物事を見る大切さを改めて感じました」とコメント。学生の素直な発想と企業の専門性が交わることで、互いに刺激し合いながら新しい価値が生まれています。

学生と企業が一体となって検討を進めてきたデザインは、2025年11月11日に「デザイン完成発表会」でお披露目されました。

そして、2026年3月の完成披露会を経て、センタービルのラウンジは、次代の中京大学を象徴する新たな空間として生まれ変わります！ ご期待ください。



岩本 優花さん(経済学部・1年/コクヨマーケティングチーム)

プロジェクトの活動の一環で、コクヨの名古屋オフィス・品川オフィスの見学をさせていただきました。私はオフィスといえば白基調の無機質な空間に机椅子が並んでるところだと思っていたので、衝撃的かつとても貴重な体験でした。普段の時間でも、「あれはどうしよう」「次はこれかな」など、常にプロジェクトのことを気にかけていました。そのおかげで、今までより視野が広くなり、いろいろなことに気付けるようになったと思います。

村瀬 詩歩さん(総合政策学部・2年/イトーキチーム)

ある回のワークショップで、自分のリーダーシップに自信がなく、とても困った場面がありました。ですが、そこで大学の管財課の方に「できなくても、それをやってリーダーになっていくんだよ」と背中を押されたことで踏み切りが付き、そのとき勇気を出したおかげで責任感を持ってチームを回すことができました。こういった「できる」自分との出会いは、プロジェクトがもたらしてくれたものです。おかげで参加する前より自分を好きになれたと思います。

COMMENTS

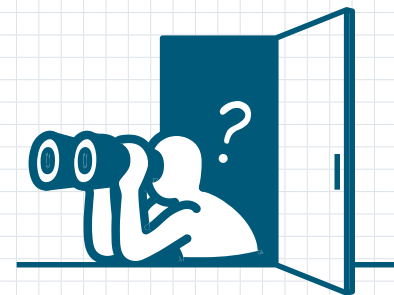
MONTHLY NEWS マンサーニュース

2025.7 — 2025.10

そもそもゼミとは...?

研究室探訪

で、その“疑問”を
解決します!!



【国際学部】ローゼンバウム知佳ゼミ・佐野八重ゼミ

国際学部のローゼンバウム知佳ゼミと佐野八重ゼミが合同で、シンガポール国立大学(NUS College)の学生たちとサービスマーケティングを実施しました。愛知県瀬戸市を舞台に、学生たちは地域活性化のための企画立案に挑戦。その活動を「フィールドワーク」と「プレゼンテーション」の2つに分けてご紹介します!

国際関係専攻(国際政治学専攻)



国際政治学専修

ローゼンバウムゼミ

ローゼンバウム 知佳 准教授

専門分野

国際政治経済・計量政治学

Report



国際開発学専修

佐野ゼミ

佐野 八重 准教授

専門分野

環境保全・SDGsに関わる
社会科学研究

Report

《フィールドワーク編》

シンガポール国立大学の学生と協働。 瀬戸の魅力発見・フィールドワーク

世界大学ランキング8位のシンガポール国立大学(NUS College)の学生25名と両ゼミ生が2025年5月16日、愛知県瀬戸市にある「鳳山つばきの森」や尾張瀬戸駅周辺でフィールドワークを実施しました。学生たちは8人前後の混合グループに分かれ、鍛え上げた英語力を駆使し、メンバー同士で活発な議論が交わされました。実際に森を歩いてツバキや瀬戸焼オブジェの現状を確認し、「子ども向けのキャンプはどうか」「多彩な植物を瀬戸焼づくりに活用できないか」など、大学生ならではの視点でアイデアを出し合いました。また、専門家から瀬戸の街が抱える課題についてレクチャーを受け、企画を練り上げるための知見を深めました。



《プレゼンテーション編》

文化の壁を越えて協創。

瀬戸の未来を開くツアーを旅行会社へ提案

フィールドワークから1週間後の5月23日、各グループが考案した瀬戸市のオリジナルツアー企画を、名鉄観光サービス株式会社に向けて発表しました。地域貢献と収益性の両立を目指し、各チームは創意工夫を凝らしたプレゼンテーションを展開しました。企画検討段階では、あるチームの日本の「冬のグランピング」という魅力が、気候の違うNUSの学生にはスムーズに伝わらない場面も。アイデアだけでなく、互いの文化的背景を理解し、粘り強く対話することの重要性を実感しました。審査員からは「若さと発想力を感じる魅力的な提案」と高く評価され、グランプリと準グランプリが決定しました。



参加してみて どうだった?

ゼミ生のリアルな声 —



シンガポールの学生たちと活動し、コミュニケーションの難しさや、一緒に考える楽しさを学びました。
3年生 齋藤裕大さん



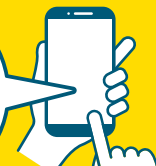
NUSとの交流で多様な考えや文化に触れ、主体的に学ぶ力を深められ、とてもいい経験になりました。
3年生 菅智琳さん

この活動を振り返って

ローゼンバウム 知佳 准教授 佐野 八重 准教授

国際学部には海外志向の強い学生たちが集まっています。民族、宗教など多様性豊かなシンガポールの大学生たちともあつという間に打ち解け、楽しく有意義な授業となりました。週末には仲良くなったグループメンバーで名古屋の街に出かけ、一日楽しんだゼミ生もいました。名鉄観光サービス株式会社様のご協力を得て、企業との接点をリアルに持てたこと、人口減少時代の街づくりという地方都市の政策課題を現場で学べたことも、学生たちには大きな収穫でした。

国際関係専攻/国際政治学専攻のInstagramでも活動の様子を紹介しています。ぜひご覧ください。



2025年11月に開催された WRC Rally Japan 2025で 中京大生が来場者への 「おもてなし」を実践!



フォーラムエイト・ラリージャパン2025とは、FIA 世界ラリー選手権 (WRC) の日本大会で、今年は愛知県および岐阜県で開催されました。中京大学社会連携教育センターは、豊田市の「一般社団法人ツーリズムとよた」と連携した学部横断型プロジェクトを2025年7月に始動しました。このプロジェクトには書類審査、面接を経て、心理学部、総合政策学部、スポーツ科学部の学生計6名が参加しています。学生たちは、大会最終日の11月9日に、豊田市内の三河湖スペシャルステージ(SS)に設置される宿泊プラン申込者限定の観戦エリアで、来場者へのおもてなしや豊田市の魅力発信などを担当しました。

「豊田っていい街だな」と感じてもらいたい!

所属学部はもちろん、年齢や立場の異なるメンバーと約4か月協働しながら、観戦チケット付き宿泊プランをご利用のお客様へのおもてなしや、観戦エリアでのイベント企画を進めました。最初は進め方に悩むこともありましたが、皆が協力的で、支え合えるチームに成長したと感じており、メンバーには感謝しています。活動を通して、計画的に動く力や人の意見をしっかり聞くという姿勢が身につく、自分自身の成長を感じています。豊田市で世界的な大会が開催されることは誇らしく、地域の皆さんの温かい協力にも感動しました。この活動を通じて出会った皆さんに「豊田っていい街だな」と感じてもらえていたらうれしいですね。

参加学生の声

(リーダー)

中川 愛理さん
スポーツ科学部・3年



Q and A

question 1 なぜこのプロジェクトに参加しようと思ったのですか?

20年間住んでいる地元・豊田市とラリージャパン、どちらも大好きだからです。私はクルマが好きで、ラリージャパンは毎年現地で観戦していたほど。「豊田の魅力やラリーの魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい!」という強い思いがあり、参加を決めました。

question 2 リーダーを務められたのですが、今振り返って率直な感想や気づきを聞かせてください。

活動を通じて、以前は苦手だったスケジュール管理能力が身に付いたと感じています。また、メンバーそれぞれの考えを聞くことで、新しい発見があり、自分の知識と結びつけながら、より良いアイデアを生み出す力が付きました。人としても大きな成長ができたと思います。

question 3 この活動に参加してよかったなと思うのはどんな点でしょうか。

学生のうちに、ツーリズムとよたさんなど社会で活躍する学外の方と関わり、普段の学生生活ではできない経験ができたことは、自分にとって大きな強みになると思います。また、大学の教職員の方々のサポートも心強く、やりがいを持って活動できました。

中京大学
社会連携教育
センターより

変化の激しい今の社会では、知識だけでなく「自ら考え、行動し、他者と協働できる力」が求められています。社会連携教育センターは、学生が地域や企業などと関わりながら学ぶことで、そうした力を育む場です。教室での学びを社会で試し、自信と実践力を身に付けます。多様な人との出会いを通して視野を広げ、未来を切り開く力を養います。

愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2
中京大学 名古屋キャンパス4号館2階

学生の皆さん、中京大学社会連携教育センターに
気軽に遊びに来てくださいね!

どなたでも参加できます 中京大学公開講座に参加してみませんか?

中京大学では「開かれた大学」を目指し、1987年から地域の皆さまに向けて公開講座を開催しています。文学や芸術、健康、暮らしの知恵など、毎年さまざまなテーマを取り上げ、学生から社会人、シニアの方まで幅広い世代に参加いただいています。ご家族での参加や、お子さまの学びに触れるきっかけとしてもお勧めです。ぜひ気軽にお越しください。

お待ちしております



中京大学公開講座 ～文化・芸術・教育シリーズ～

2026年2月 華道家・写真家 池坊専宗さんによる公開講座が決定!



2026年2月に華道家・池坊専宗(いけのぼう・せんしゅう)さんをお迎えし、公開講座「文化・芸術・教育シリーズvol.61」を開催します。壇上での生け花デモンストレーションも予定しています。長い歴史の中で受け継がれてきた「花を生ける」という表現を通して、自然や人、そして心のあり方に触れる講演をしていただきます。

詳細はホームページで公開予定です。ぜひ楽しみにお待ちください。

PROFILE

池坊 専宗 (華道家・写真家)

華道家元池坊 次期家元池坊専好の長男として京都に生まれる。慶應義塾大学理工学部入学後、東京大学法学部入学。東京大学卒業時に成績優秀として「卓越」を受賞。名もなき花を生け、日常の一瞬間を写真として描く。JR京都伊勢丹にて祈りの展示「MOVING」、日本橋三越本店にて写真展「一粒の砂 記憶 ひかり」を行う。EXPO2025 大阪・関西万博における落陽陽一氏プロデュースのバビリオン「null2」の茶室にて、184日間の移ろう花を生ける。池坊青年部代表、京都市未来共創チームメンバー、東京国立博物館アンバサダー、花の甲子園審査員、2024年度 KYOTO CRAFTS and DESIGN COMPETITION審査員。京都の66の伝統工芸を描いた写真集『よい使い手 よい作り手』刊行。講座「いけばなの補助線」や文筆、インスタレーションなど様々なかたちで日常の美しさと交わることを伝え続けている。信条は「光を感じ、草木の命をまなざすこと」。

公開講座レポート!

中京大学公開講座 ～ソフトサイエンスシリーズ第46回～

AIは何もの

～AIはどう動き、私たちに何をもたらすのか～

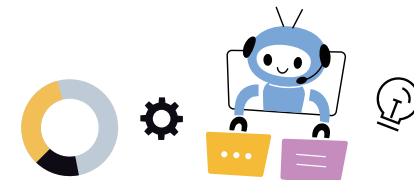
2025年10月1日、名古屋キャンパスで中京大学公開講座ソフトサイエンスシリーズ第46回が開催されました。

名古屋工業大学名誉教授の岩田彰氏を講師に迎え、「AIは何もの～AIはどう動き、私たちに何をもたらすのか～」と題してご講演いただきました。AIの歴史からニューラルネットワークの仕組み、ChatGPTなどの生成AIの実演まで、分かりやすく解説。岩田氏は「生成AIは考える相棒。スマホの中に1万人の専門家がいてくれる感覚」と表現し、賢く使うことの重要性を強調されました。AI時代の新しい学び方・働き方を考える貴重な機会となりました。

司会は学生広報スタッフ「ライト」の加藤優希さん(現代社会学部 2年)が務めました。



岩田 彰氏





ライトメンバー紹介



小山 昌哉 (法学部・4年) 垣添 琴葉 (国際学部・3年) 宇都 亜衣菜 (文学部・2年) 大場 雄斗 (総合政策学部・2年)

今回のテーマは「ボランティア活動」

公式ホームページなどでは伝えられない施設の魅力を
中京大生だからできる直撃取材でお届けします！

このページは学生広報スタッフ「ライト」のメンバーが取材・撮影を担当しました。
学生ならではの目線を生かした企画・記事をお届けします！



部活動やサークルとボランティア団体の違いって？

「このスポーツが得意」「大学では音楽がやりたい！」などという具体的な目標がまだ見つからない人も、焦る必要はありません。中京大学には「ボランティア団体」という第三の選択肢があります。社会貢献を軸にさまざまな活動ができ、部活動やサークルより、自分のペースで活動しやすい団体があるのも魅力です。もちろん就職活動の「ガクチカ(学生時代に力を入れたこと)」の記載にも役立ちます。新しい自分の可能性を発見する一歩を踏み出したい人におすすめです！



こんな人におすすめ
とにかく何かを始めたい人

学生広報スタッフ ライト

学生目線で大学の魅力を発信中！大学公式InstagramやYouTubeの運用に加え、年に2回発刊されるスポーツ誌「Beyond」の制作にも関わっています。中日新聞社主催の研修も実施され、報道やスポーツの現場を目の当たりにできます。

こんな人におすすめ
子どもと関わるのが好きな人

Chukyo University Volunteer Entrance CUVE

CUVEでは他大学の学生と共に協力・交流しながら、子ども食堂や子ども大学などを中心としたボランティア活動を行っています。活動は月に2〜3回ほど。メンバーはCUVEの公式InstagramのDMから随時募集しています。

こんな人におすすめ
英語力を磨きたい人

中京大学国際交流ボランティア団体 VOICE

留学生の生活支援活動と、交流イベント運営の二つに力を入れています。中京大学生と留学生のパーティ制度も充実！ランチタイムを利用したイベントや大規模なパーティまでさまざまな活動ができます。

詳しくは大学公式Instagramをチェック！

ボランティア団体は他にもあるよ！

インスタで紹介するからぜひ声をかけてね

レッツゴーブンカ 其 五

『レッツゴーブンカ』とは？

スポーツのイメージが強い中京大学ですが、実は文化会部活動の活躍もアツい！というわけで、中京大学文化会が、日本や世界の文化を再発信していく連載企画です。



中京大学混声合唱団

寺本 克希さん (心理学部3年/団長)



みなさんは「合唱」という言葉から何を連想するでしょうか。日本では年末になると、全国各地でベートーヴェン交響曲第九番、通称「第九」が歌われます。そういったクラシック作品に触れたことがない方でも、卒業式の定番ソングである「大地讃頌」や「旅立ちの日に」は、どこかで歌ったり耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

合唱の世界は、こうした定番曲だけではありません。昔からの童謡、美空ひばりさんの「川の流れのように」のような歌謡曲、そしてMrs. GREEN APPLEの「ライラック」に代表される最新のポップスまで、多彩なジャンルの楽曲が合唱用に編曲され、歌われています。その編曲を手掛けるのは合唱作曲家の方々ですが、実は合唱の世界にも「人気作曲家」や「流行の作曲家」という概念が存在するのです。

現在の合唱界で最も人気があり、流行の最先端を行く作曲家の一人が信長貴富(のぶなが・たかとみ)さんです。信長さんの作品の大きな特徴は、美しいハーモニーにあります。歌う側にとっても聴く側にとっても心地よく、多くの合唱団に愛されています。信長さんが編曲された楽曲には、前述の「川の流れのように」、NHK全国学校音楽コンクール課題曲となった森山直太郎さんの「虹」、そして東日本大震災で全国に散ることになった福島県南相馬市立小高中学校の生徒たちの思いから生まれた「群青」など、数多くの名曲があります。「群青」は、震災当時1年生だった子どもたちの卒業式に際して制作された作品で、生徒たち自身の日記や作文から歌詞が紡がれた、心に響く一曲です。

信長さんはオリジナルの合唱作品も数多く手掛けており、その中から私たちのお薦めを3曲ご紹介します。

- 1 混声合唱曲集
『女性詩人による三つの譚歌』より「春」
- 2 覚和歌子の詩による混声合唱曲集
『等圧線』より「リフレイン」
- 3 混声合唱とピアノのための
『こいうた』より「恋唄・空」

ぜひお時間があるときに、流し聞きでも構いませんので、耳を傾けていただけると幸いです。

私たち混声合唱団では、信長さんの楽曲を含めた様々な作品を日々練習しています。毎年の目標は、年度末に開催する定期演奏会です。

今年度は、先ほどお薦めした「恋唄・空」を含む、混声合唱とピアノのための『こいうた』全編をはじめ、J-POPも交えたバラエティー豊かなレパートリーを演奏する予定です。

第57回定期演奏会

日時 2026年3月14日(土) 場所 名古屋市港文化小劇場

入場無料

少しでも気になった方は、ぜひお越しください。最新情報は私たちの各種公式SNSで随時更新しておりますので、ご来場の際はご確認いただけますと幸いです。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



< YouTube



< Instagram
@chukyo_mixedchorus



< X
@konsei_223



暮らしをちょっと豊かにする ワンポイントアドバイス

世界規模のスポーツイベントが続く
2025～26年。

観戦“じゃない” 目線で見よう。



今回のコラムニストは…

副学長(研究・産官学連携担当)
スポーツ科学研究科・スポーツ科学部 教授

来田 享子 教授

研究分野 スポーツ史、スポーツとジェンダー

ミラノ五輪は分散開催！？

2026年2月には冬季五輪、3月には冬季パラリンピックが開催されます。冬季五輪では特に地球規模の環境問題との向き合い方が課題となっています。過去の冬季五輪開催地のうち、今世紀末に再開催が可能な場所は札幌だけになるという研究結果があるほどです。70年前にコルティナ・ダンペッツォで冬季大会が開催された時には、誰も想像していなかった未来かもしれません。そこで今大会は、ミラノがスケートリンクを使用する都市型会場となり、イタリア4カ所の山岳地帯に会場が分散されています。複数都市にまたがる大会開催は、五輪史上初めてのことです。こうすることで、環境への負荷を軽減し、コストの削減も目指しています。



アスリートも環境問題に取り組んでいます

地球環境問題に積極的に取り組んでいる卒業生オリンピックがあることをご存知でしょうか。例えば、フィギュアスケートの小塚崇彦さん、安藤美姫さん、モーグルの伊藤みきさんは、HEROs PLEDGEという活動のパートナーアスリートになっています。この活動は、使い捨てプラスチックごみゼロに挑戦することを起点とした、スポーツ界発のムーブメントです。温暖化による熱中症のリスク、雪不足による大会中止、ゴミによる海洋スポーツでのトラブルなど、スポーツは地球環境問題に直面する機会でもあるからです。



2026年には愛知県でアジア大会が開催！

2026年冬季五輪から約半年後には、私たちが暮らす愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会が開催されます。この大会は「アジアの子どもの未来のために」を理念として掲げています。大会を契機に、持続可能な社会、ダイバーシティ&インクルージョン、人々をつなぐスポーツの力を活かした地域づくりという3つの柱に沿った政策・施策の展開が目指されています。

暮らす街がアジアを中心に世界から人々の集まる場となります。その場所で選手たちの努力を肌で感じる経験は、テレビやネット動画とはまったく違う感覚を呼び起こします。結果だけに注目が集まるメディア情報とも異なります。百聞は一見にしかず。ぜひ皆さんも、何らかの形でリアルに大会に関わってください。



【ELTEプログラム】 海外留学生との授業で広がる、 英語と国際理解

中京大学附属中京高等学校では、中京大学と連携のもと、2週間にわたり「ELTEプログラム(英語指導助手体験)」を実施しました。イギリス、アメリカ、エストニアから来日した5人の留学生が英語の授業を見学し、最終日には本校のネイティブ教員と協力して授業を担当。生徒たちは、異なる国の文化や表現に直接触れながら、英語でのコミュニケーション力を磨きました。

留学生にとっても、日本の教育現場で実践経験を積み貴重な機会となり、互いに刺激し合う充実した交流の時間となりました。

今後も中京大学と附属高校は、国際的な視野を育む教育活動をともに推進していきます。



イギリス・アメリカ・
エストニアの
留学生と
みんなで記念撮影



ELTE Experience 2025 English Language Teaching Experience

Chukyo University Senior High School and Chukyo University work so close together to support each other. So, the last 2 weeks we have had some great exchanges. 5 International students from England, the US and Estonia have been to our school to watch English communication lessons, teaming up with our native team and then finally teaching a class. But, of course, they were supported by us all here. It was a great chance for them to improve their teaching skills. But a super chance for our students to interact and learn English from new native speakers. It's great to meet people from all over the world and work together.

Chukyo to the World 2025.

英語でも読んでみませんか？



【ダンス部】 第18回日本高校ダンス部選手権 スモールクラス優勝！初の全国制覇

ダンス部が、2025年9月7日に日本工学院アリーナで開催された「第18回日本高校ダンス部選手権全国決勝大会(スモールクラス)」に出場し、全国優勝を果たしました。創部以来初の快挙となります。7月から全国各地で行われた地方予選には、300校を超える学校が参加。その中で上位8校のみが進出できる全国決勝の舞台上、磨き上げた表現力とチームワークを発揮しました。



ダンス部より

日頃からの応援に心より感謝申し上げるとともに、部員たちはこの栄誉に慢心することなく、今後も「応援される部活動」を目指して努力を重ねていきます。





■ タイトル

$\frac{1}{1461}$



■ 表紙作者 中谷 雄太 さん (法学部2年・漫画研究会)

今回このような機会をいただいたことを非常に光栄に思います。
まだ未熟ですが、今出せる全力をこの作品にぶつけることができました。この作品は、親しい友人と談笑する何物にも代え難い時間を切り取るイメージで作成しました。
皆さんも、かけがえのない一瞬を大学生活の中で見つけれられるよう願っております。

広報誌の送付を
希望される方は
こちら



本誌に関する
ご意見ご感想を
お寄せください。



広報誌の送付停止
のお手続きは
こちら

